

おじいちゃんのごはん

さいたま市立文蔵小学校 二年
山口智也

「パチパチパチ。」という音で目がさめました。おじいちゃんの家にとまったよく朝のことです。外を見たら、おじいちゃんがうちわで火をあおいでいました。いつものおじいちゃんのごはんです。おじいちゃん、ごはんをかまどでたいてくれます。

「たいへんじゃないの。」

とぼくがきくと、おじいちゃんは、

「ともやにおいしいごはんをたべさせてあげたいんだよ。」

と言いました。ぼくが、かまを見てみると、ぐつぐつおこめがにえてきました。おじいちゃんの顔はしんけんです。おじいちゃんが子どもときは、まい日かまどでごはんをたいていたそうです。

火を強くするために、木を小さく切ってかまどに入れます。かまからは、白いじょう気がたくさん出てきました。ぼくは、ごはんのようすを見たくまりました。

「中を見たいな。」

と言うと、おじいちゃんは、

「おいしいごはんを作るには、ぜったいにふたをあけたらいけないよ。」

と教えてくれました。ぼくは、おいしいごはんをたべたいのですがまんしました。

おじいちゃんが、うちわで火を強くしたり弱くしたりして、やっとごはんがたけました。でも、すぐにはたべられません。かまどからおろしてちよつとごはんを休けいさせます。ごはんを休けいさせると、ふつくらして、もつとおいしくなるそうです。

「できたよ。」

いよいよ朝ごはんです。ぼくがかまのふたをあけると、ツヤツヤのごはんがたけていました。あまくて、ふつくらで、おこげもあって、とてもおいしかったです。家ぞくみんなで、ニコニコしながら、おじいちゃんのごはんをおなかいっぱい食べました。